

# 富山・弓庄城跡

ゆみのしょう



(魚津)

弓庄城跡は、上市町の中心部から南へ約二km、町の南東部を流れる白岩川の標高五〇m前後の河岸段丘上に位置する。

一九八一年から一九八五年にかけて当遺跡周辺において、団体営ほ場整備並びに県営ほ場整備事業が計画されたため、上市町教育委員会が事前発掘調査を実施し

- |                 |                                 |
|-----------------|---------------------------------|
| 1 所在地           | 富山県中新川郡上市町館                     |
| 2 調査期間          | 一九八一年(昭56)五月～一二月、一九八四年四月<br>～九月 |
| 3 発掘機関          | 上市町教育委員会                        |
| 4 調査担当者         | 高慶 孝                            |
| 5 遺跡の種類         | 城館跡                             |
| 6 遺跡の年代         | 鎌倉時代～室町時代末(戦国期)                 |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                                 |

中世豪族の土肥氏の居城があつたことが知られており、中世末の遺物の散布が認められていた。このため、当該時期の遺構の存在が予想されていたが、調査の結果、中世末の城跡の遺構のほかに、それと重複して、中世の荘園に係わる遺構も数多く検出された。城跡に係わる遺構としては、掘立柱建物・井戸跡・土壙・溝があり、一六世紀頃に比定される土師質土器・陶磁器・石臼などの石製品、刀小柄・かんざしなどの金属製品、下駄・櫛などの木製品などが出土している。木簡は、一点出土しており、(1)は三の丸の内部を区画する溝から、(2)は、(1)の丸付近の近世の溝から出土したものである。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) □ 牛定

(194)×(30)×(4) 081

(2) □ [藤カ] マサ □

(204)×(27)×(15) 059

(1)は報告書では、「□牛書」と読んだが、その後の検討で釈読を



